1949年９月17日第三種郵便物認可　毎月10日発行　第675号（通巻1179号）　定価１部40円

創立1880年
東京YMCA
2010 4 月号
発行所　東京キリスト教青年会　発行人　廣田光司
135-0016　東京都江東区東陽2-2-20　電話　03-3615-5562
URL http://tokyo.ymca.or.jp

東京ＹＭＣＡの使命
東京ＹＭＣＡは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

インターナショナルスクール・TYIS（タイアス）
「地球市民」育てる特色豊かな国際学校

インターナショナルスクール副校長　山根一毅

東京ＹＭＣＡインターナショナルスクール（ＴＹＩＳ）が東陽町センターで生まれて、今年で12年目を迎える。

北米のカリキュラムを中心に授業はすべて英語で行い、これまでに「江東区や近隣の地域の外国籍」「保護者が国際的な背景を持つ」「敢えて国際的教育にチャレンジしようとする日本人父母」などの子どもたちを受け入れ、送り出してきた。

ＴＹＩＳもまた試行錯誤を繰り返しながらも着実に成果を上げ、昨年の秋には、幼稚園から小学6年生までの全課程が、アメリカの学校認証機関であり世界的にも評価されているＷＡＳＣ（米国西部地域学校大学協議会）の審査に合格、晴れてＷＡＳＣ認証が与えられた。この朗報は私たちの学校が一定水準の教育レベルを常に維持していることを第3者に証明してもらったこととなり、対外的にも、また働くものにとっても新たな励みとなった。

私が担当することとなった昨年、「この学校は東京ＹＭＣＡの中で、どの様な位置づけになるのか」という疑問を常に持っていた。会員の中にもインターナショナルスクールの存在をご存知ない方もいるのではないかと思う。学校の生徒も教員もＴＹＩＳの一員ではあるのだが、広い意味で、ＹＭＣＡの一部となりえているのだろうかとも感じている。

◇　◇

日常業務に目を向けると、ＹＭＣＡスタッフとＴＹＩＳ教員とのコミュニケーションひとつを取ってみても、英語が障壁となり決して易しくはない。まるで、日本の社会とそこに暮らす外国籍の人々の関係の縮図が、東陽町センターの建物の中に描かれているように感じていた。それでも、ここには他では見られないユニークな教育の場が存在している。

例えば月に1度の全校集会では、各学年から数人の生徒が選ばれ、表彰される。図書室の本の読書量と、その内容に対する理解度が優れている生徒や、ＹＭＣＡが大切にする4つの価値「caring, honesty, responsibility, respect」を実践できた生徒などが対象となる。表彰された生徒にとって、全校生徒から大きな拍手と歓声を浴び、自分に誇りが持てる瞬間だ。

毎年2月にはアメリカの寄付文化の一つである「フードドライブ」を実施している。家庭で利用されることのない保存の利く食料（缶詰や乾麺、穀類など）を集め、各クラスでその重量を競い合うプログラムだ。

本家アメリカでは、「フットボール場一杯に」などという目標も立てられるそうだが、ＴＹＩＳでも、持ち寄られた食料をＮＰＯのセカンドハーベスト・ジャパンに送り、路上生活者や海外からの難民移住者などの支援に用いていただいている。

プログラムの取り組みまでのプロセスも面白い。インターネットを通じて、世界中から英語の情報をダイレクトに集めてくることができる。動画サイトのユーチューブによるアメリカのニュースなどを、そのまま教材として活かすことができるのも、インターナショナルスクールならではだ。

また、教師による説明が始まるや否や、すぐに子どもたちが質問のために手を挙げ始めるのも、教師が質問に対して「Thank you for the good question!」と応えているのも、インターナショナルスクールらしい特徴だ。

私はこのような取り組みの一つひとつを知るにつれ、アメリカのカリキュラムによる英語での授業というユニークさもさることながら、ＴＹＩＳの青少年教育や開発教育の視点からの取り組みは、今後の東京ＹＭＣＡをむしろ牽引していく力を持っているように感じている。

◇　◇

月曜日～金曜日の8時30分から15時という、おそらく東陽町センターの中で最も長く密度の濃い時間を子どもたちと過ごすＴＹＩＳには、東京ＹＭＣＡが歴史の中で備えてきた多くの力を、時代に合った形として表現できる場になれる可能性が十分にある。スタート時はわずか24人であったＴＹＩＳは10年かけてようやく小学校としての形を作り上げることができた。

しかし一方では、施設的な課題もあり中学レベル以上の課程は、その教育環境をしっかりと整えることができずにおり、残念ながら4年生以後を中心に、多くの生徒たちが中学・高校課程のある他校へ転向していくのが現状だ。

今後は、インターナショナルスクールというハード・ソフトの両面を基盤に、世界に広がるＹＭＣＡの力を存分に生かすことで、幼児から青年期までを対象に真の「地球市民」の育成環境をＹＭＣＡに創造していきたい。

さらに募金や助成なども活用し、より多くの子どもや青年たちに、成長にあった充実した多くのプログラムを提供していきたいとも考えている。

◇「いのちが一番大切だと思っていたころ、生きるのが苦しかった。いのちより大切なものがあると知った日、生きているのが嬉しかった」（星野富弘「花の詩画集」より）

◇私たちは、何か重大な悲しいことが起こったとき「なぜ、自分にこのような不幸が起こったのか」とその原因を考えて悩みます。しかし「このことは何のために起こったのか」と考えることもできます。前者は原因を過去に向かって考え、後者はこれからのことを考えているのですが〝何のために〟は〝何を実現するために〟につながり、そう考えるところには大きな意思を感じていることに気づかされます。

◇星野富弘さんは若くして半身不随になりながら、努力の末に口で絵筆を使い美しい絵を描き、神様に導かれてすばらしい感性で私たちに詩をプレゼントしてくれています。このすばらしい恵みを考える時、全ての出来事は偶然に起こっているのではなく、ある大きな意思により生み出されていることに気づかされます。

◇全てのことが用意され、神様によって生かされていることに喜びを見出すのです。新しく迎えた東京ＹＭＣＡの２０１０年度も、常にそのことを喜んで過ごして行きたいと思います。

（総主事　廣田光司）

すべての人を一つにしてください
神様に生かされる喜び

＝公　示＝

創立130年記念感謝礼拝

日　時：2010年５月29日（土）
13：30～15：00（予定）
場　所：日本キリスト教団銀座教会（予定）
■お問合せ：総務部
ＴＥＬ　03―3615―5562

第７回会員大会

日　時：2010年５月29日（土）
16：30～19：00
場　所：東京ＹＭＣＡ東陽町センター
■お問合せ：会員部
ＴＥＬ　03―3615―5568

赤▽三角

近頃、「地球市民」「地球市民社会」という言葉をよく聞くようになった。「世界」ではなく、敢えて「地球」というところに新鮮さと広がりを感じる。▼一般にどう定義されているのかは専門外でわからないが、ネット検索の一つでは次のようにまとめている。「平和、環境、人権、貧困など地球規模の課題の解決に向けて、地球に暮らす一員として日々の生活の中で考え、身近なところから行動する人々のことを『地球市民』という」。そう、私たちのＹＭＣＡも「地球市民」を目指すＮＧＯなのだ。▼さて3月末、1人の「地球市民」が外務省の平和構築人材育成事業の一環で、ユニセフ・ラオス事務所に1年間派遣されることになり、任地に向けて旅立っていった。以前バングラデシュのダハパラ診療所を援助する会「マンディ」の代表を務めたことのある松岡（旧姓市村）幸子さんだ。▼松岡さんは、東京―バングラデシュＹＭＣＡパートナーシップのワークキャンプ経験者の1人である。大学卒業後は日本ユニセフ協会から英国へ留学（健康増進と開発学の分野で修士取得）、帰国後の2年間は日本赤十字社でＨＩＶ／ＡＩＤＳ対策等の開発事業や保健分野での人道支援に携わって来た。バングラでのワークキャンプが、その後の彼女の活動の、いわば出発点になったことに思いを馳せ、現地でのご活躍を心から祈りたい。

（国際委員　山本雅子）